

# 雨水蒸発させ芝冷却、県産木材活用

# 神戸に環境志向サッカー場

高校サッカーの名門、滝川第二高校のOBらでつくる一般社団法人「マイスター」(神戸市西区)が、自前のサッカーグラウンドを同市西区に造る。雨水や地元の木材を活用するなど、環境への配慮を徹底。住民にも開放し、楽しめるような場を目指す。早ければ来年12月ごろには完成する予定で、同法人は「サッカーを軸に、地域のコミュニティー拠点にしていきたい」と話す。(有馬弘記)

## 滝川第二高OBら整備へ



神戸市西区平野町に計画されているサッカーグラウンドの完成イメージ図(一般社団法人マイスター提供)

建設予定地は同区並野町の田圃地帯。約9100平方メートルで、人工芝コート(4千平方メートル)と2階建てクラブハウス、芝生広場などを設ける。

目指すのは、欧米の最新技術を取り入れた「エコグラウンド」。同法人の理事井口洋平さん(36)は「海外のスポーツ施設は、環境問題に向き合っており、環境問題に日本らしさを加えたい」と狙いを語る。人工芝コートは地下約10センチを掘り下げ、オランダ発のシステムを入れる。自然の土壌のように雨水を蓄え、蒸発を促す機能があり、蒸気の冷却機能で、夏場



パサラ兵庫グラウンド建設予定地

## 「住民集う地域の広場に」

は最高60度にもなる表面温度を使う。40%カット。選手にもやさしい。また、ドイツなどでは、地元のため込んだ雨水は、災害時に断水になった場合、使うことを想定。阪神・淡路大震災ではトイレなど生活水の確保が課題になった。コート下にためた水は必要な時、地域に提供する計画だ。

照明も、電力消費量と温室効果ガスを減らす発光ダイオード(LED)を採用。2階建てのクラブハウスは兵庫産の木材をふんだんに使い、荒廃が進む山の価値や大工の伝統技術を伝える「ジョー・ルーム」として位置付ける。いずれも、人と自然の共生を目指す国連のSDGs(エスディイージース・持続可能な開発目標)に沿った取り組み。コンクリートブロックは、貧困で普及が図られているドイツ企業の製品だ。



電子版・神戸新聞NEXTに、詳細を掲載しています。一連の取り組みについては今後、関連記事をNEXTを中心に紹介していきます。

一般社団法人マイスター 2015年設立。代表理事は滝川第二高校サッカー部OBの岡良一氏(34)。幼児と小学生が対象のサッカースクールと中学生チーム「マイスター須磨」を運営する。チーム名は来春、「パサラ兵庫」に改称。法人のグループには、トップリーグのアマチュアクラブで、同校OBが監督を務める「パサラマイスター」もある。

11月4日神戸新聞分

「何故いま」 きっと逆だろうね 「今だからこそ」  
良くも悪くも、いや、悪くはないか、こんな所にも瀧二ブランドのアイデアが生かされるのでしょ、  
面白いね。